

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター ニュースレター

第3号



北海道大学病院長

浅香 正博

ご挨拶

2005年4月より北海道大学病院に地域医療連携部が設立されました。従来より北大病院の敷居は高く紹介しにくいということがいくつかの施設からいわれておりました。確かに大学病院はいくつもの独立した診療科の集合体であり、その診療科の関連している病院や医師でないと紹介しにくい風潮はあったと思われます。しかし、地域医療連携部が創立されてからは各診療科に連絡しなくても地域医療連携

部に連絡していただくと診療の予約は簡単に取れるようになってきました。地域医療連携部の仕事はこのような前方支援のみではなく、北大病院を退院した後の病院の紹介などの後方支援も行っております。北大病院は急性期病院としての診療を行っていることより、北大病院での診療の後、連携しながら患者さんを診ていただける市中の病院を募集したいと考えております。昨年、医療福祉相談室と合体し、地域医療連携福祉センターと名前を変え、さらに地域連携の輪を広げる努力を行っていきたいと思っております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携部福祉センター スタッフ紹介

地域医療連携福祉センター

センター長 福田 諭

2007年4月より、地域医療連携福祉センター長をおおせつかりました。

このセンターは、地域医療連携部と医療福祉相談室が1つとなったもので、扱う範囲は大変多岐にわたっております。とりわけ地域医療機関との前方連携、後方連携は北大病院にとって大変重要な機能の一つで、センターのスタッフも連日、猫の手も借りたいといった状況で精力的に動いております。今後、地域医療機関との病診連携、病病連携の推進が図られる中、このセンターの役割はますます大きくなると考えられますが、一方でさらな



る機能やデータの整備充実も求められてくることと思います。新しいスタッフも2名加え、新たな気持ちでスタッフ全員4月よりスタートをきったところです。

どうぞ、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

神経疾患治療は確実に進歩しています！

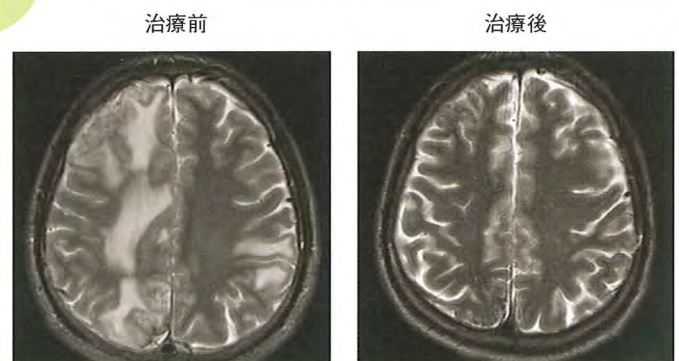
神経内科助教 辻 幸子

神経内科では、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の器質的、機能的異常に起因する疾患を専門に診療しています。頭痛、四肢の感覚障害や脱力、めまい、歩行障害、認知機能障害、けいれんや失神発作、不随意運動などは日常遭遇する頻度の高い神経症候です。神経症状は病変の部位により多彩です。神経症状を来す疾患は、いわゆる神経難病のみではありません。血管障害、腫瘍、感染、外傷など一般的なものに加えて、中毒性疾患、糖尿病をはじめとする代謝性疾患、膠原病などの免疫性疾患、さらにはサルコイドーシスなどの肉芽腫性疾患など、多様な疾患が背景にあります。最近では癌の化学療法に続発した神経症状の評価依頼も増えています。

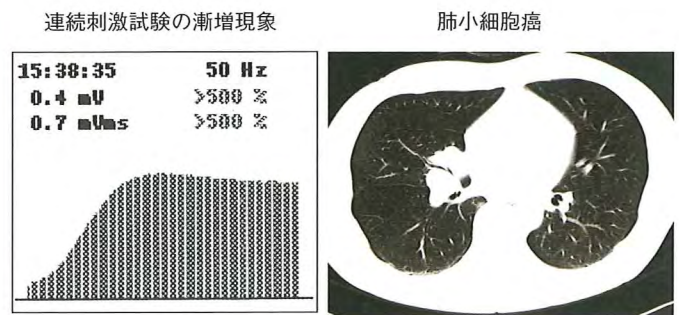
神経内科では神経学的診察により局在診断を行い、末梢神経伝導検査、筋電図、脳波などの電気生理学的検査、MRI や SPECT などの画像検査、さらには髄液検査や筋生検などの補助検査を行い、鑑別診断と確定診断を行って、治療方針を決定しています。診察には時間がかかります。新患は月～金の毎日午前中に受付けています。一般外来の他に、頭痛、重症筋無力症、パーキンソン病、ポツリヌス治療などの専門外来も行っています。

神経疾患は治らないというイメージは正しくありません。神経症状を来す基礎疾患の早期診断と治療管理によっては、その後の後遺障害を最低限に防ぐことのできる場合が稀ではありません。基礎疾患の診断・治療は北大病院の機能を十分に活用して、関係診療科と緊密に協力して行っています。当科では、各種治験にも積極的に参加して大学病院に期待される先進医療にも取り組んでいます。近年、神経疾患においても新規治療法の開発はめざましく進歩しており、最新の治療を導入するよう努力しています。例えば、片頭痛頓挫薬であるトリプタン、多発性硬化症再発予防のためのインターフェロン、免疫性末梢神経疾患への免疫グロブリン大量静注療法、重症筋無力症への免疫抑制剤、ジストニアや片側顔面痙攣へ

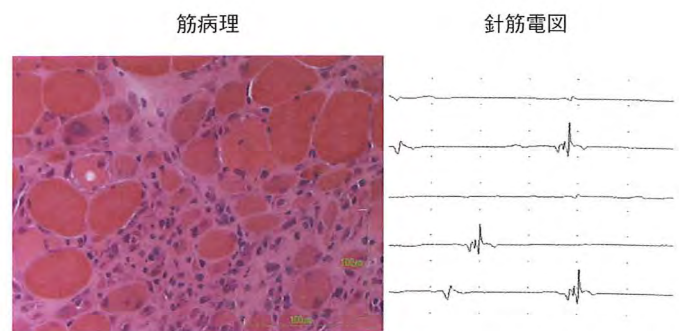
のポツリヌス療法、新たな抗パーキンソン病薬など、治療に成果を上げています。さらに、医療ネットワークと福祉制度を活用して慢性疾患患者と家族の療養環境の整備を支援しています。今後も北海道の神経疾患医療を充実させるべく邁進していく所存です。当科が皆様の診療のお役に立てるケースがありましたらご紹介下さい。



中枢神経サルコイドーシス症例：治療前(左)とステロイド治療後(右)の頭部 MRI。



下肢筋力低下をきっかけに受診し、Lambert-Eaton 症候群(左)と肺小細胞癌(右)が発見された症例。



多発筋炎症例。細胞浸潤と筋壊死再生像(左)。多相性電位の自発放電(右)。

多様なニーズにお答えします

皮膚科講師 阿部 理一郎

北海道大学病院皮膚科は清水 宏教授以下スタッフ7名、医員9名、および後期研修医や大学院生で構成されております。皮膚疾患は炎症性疾患から皮膚悪性腫瘍まで幅広く、それに伴い当科では、通常の初診・再診外来に加え様々な特殊外来（遺伝相談、魚鱗癬、リンパ腫、乾癬、脱毛・アトピー外来、皮膚腫瘍外科、レーザー）も行っており、患者様に対して正確な診断をし、最も適した治療を行うことをモットーとしております（詳しくはホームページをご覧ください：<http://www.derm-hokudai.jp/>）。

また当科は大学病院としての性質上、commonな疾患ではあるが外来診療のみではコントロールの難しい症例や、ステロイド大量投与などが必要な難治性疾患、また複雑な手術が必要な悪性腫瘍の症例が多く、それぞれに対して積極的に治療を行っております。

例えばアトピー性皮膚炎に対して教育入院プログラムを行っており、年間30名を超える患者さんが入院されています。正しい入浴法と外用法など日常生活の指導に加えて疾患に対する正しい理解のため教育講義も行っています。

また難治性疾患に対する治験にも当科は多数参加しており、最近では尋常性天疱瘡に対する免疫グロブリン大量療法を行いました。加えて尋常性乾癬に対する生物製剤

（抗TNFα抗体）投与の治験にも参画しております。

手術に関しましては、紹介症例の増加に伴いまして昨年の年間手術件数は過去10年間で最も多い284件になりました。最近の傾向としては、悪性腫瘍症例が多く、植皮術とともに、皮弁術やリンパ節関連の手術といった大掛かりな手術例の増加が著明です。

地域医療施設からのご紹介により平成18年度の外来初診患者数は約2500人（外来受診者総数約24000人）、入院患者数も約600人程度となっております。今後も北海道の基幹病院として、地域医療施設の方のご希望に添えるよう邁進する所存です。



アトピー性皮膚炎教育入院プログラム



悪性黒色腫(踵)に対する皮弁術

平成19年4月～ セカンドオピニオン外来を開設しました

北海道大学病院以外の医療機関で診療を受けている患者さんを対象に、当院の専門医が診断内容や治療法等に関して助言をおこないます。

専門医が45分面談し、残りの15分で主治医への報告書を作成します。完全予約制ですので、受診を希望する場合は地域医療連携福祉センターまでお問い合わせください。

申し込みについて

1. 患者さん本人またはご家族からの申し込みとなります。
2. セカンドオピニオンでは検査や治療は行いません。受診日にはセカンドオピニオンに必要と思われる画像や検査データ等、できるだけ資料を患者さんまたはご家族が持参できるように、ご協力をお願いいたします。
3. セカンドオピニオン外来を受診した当日、当院の一般外来は受付出来ません。当院での治療を希望される場合は、改めてご紹介ください。

患者ご本人の受診が原則です

1. 患者さんが未成年の場合、及びご家族だけの受診の場合は、ご家族の身分証明書が必要となります。
2. ご本人が受診できない場合は、ご本人が署名した「相談同意書」（様式3）が必要となります。

セカンドオピニオンを受けられない場合があります

1. ご本人の相談同意書のない家族受診の場合
2. 主治医に対する不満、転医希望、医療事故に関する相談を希望する場合

受診日時と専門医は当院で決定します

1. 疾患や相談内容によりセカンドオピニオン外来担当医が受診の可否、および専門医を決定します。
2. 対象疾患は一覧表を参照ください。

受診時間および料金

1. 受診は完全予約制となっています。受診時間は一時間です。
2. 料金は自由診療のため31,500円(税込み)ご負担いただきます。主治医への報告書作成費を含めます。
3. お問い合わせ、予約には料金はかかりません。

受診後は報告書をお渡しします

1. 患者さんに主治医宛の報告書をお渡しします。診察時に参照ください。
2. 資料類は患者さんへお返しします。または郵送にて主治医へ返却いたします。

受診までのながれ



北海道大学病院ホームページ

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp>

ダウンロードできる書類

- (様式1) 「申込書」(PDF、WORD)
- (様式2) 「主治医の先生へのお願い」(PDF、WORD)
- (様式3) 「相談同意書」(PDF、WORD) (ご家族のみの場合必要)
- (様式4) 「診療情報提供書(Ⅱ)」(PDF、WORD)

連絡先

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-7040 (直通) FAX : 011-706-7963 (直通)



院内の温室

セカンドオピニオン対象疾患一覧表

【医科】

診療科	診療内容
第一内科	肺がんの診断と治療方針
	慢性閉塞性肺疾患の診断と治療方針
	リンパ脈管筋腫症の診断と治療方針
	間質性肺炎の診断と治療方針
	原発性肺高血圧症の診断と治療方針
	慢性血栓性肺高血圧症の診断と治療方針
	サルコイドーシスの診断と治療方針
	難治性喘息の診断と治療方針
第三内科	食道・胃・大腸の腫瘍性病変における、内視鏡治療の適応について
	手術不可能な食道癌・胃癌・大腸癌・消化管間葉系腫瘍・胆嚢癌・膵臓癌に対する治療方針
	手術可能な食道癌に対する放射線化学療法の治療方針
	進行消化管癌の緩和医療と治療方針
	血液疾患および悪性腫瘍における造血幹細胞移植の治療方針
	白血病などの血液疾患の治療方針
循環器内科	虚血性心疾患の治療方針
	弁膜症, 虚血性心疾患, 心不全の外科的適応の是非
	心筋疾患の診断, 治療方針の是非
	心筋疾患の治療方針 (ペースメーカー, 埋め込み型除細動器など)
血液内科	白血病, 悪性リンパ腫など血液疾患の治療方針
	造血幹細胞移植の適応について
第一外科	消化器疾患
	肝臓移植治療
	乳腺・甲状腺疾患
第二外科	消化器悪性腫瘍に対する手術 (肝細胞癌を除く)
	呼吸器悪性腫瘍に対する手術
整形外科	肩, 肘, 手関節疾患
	骨, 軟部腫瘍
	脊柱管狭窄症, 椎間板ヘルニア, 脊柱靱帯骨化症
	脊柱変形
	脊椎腫瘍, 感染症
	膝前十字靱帯損傷, 人工膝関節置換術
	人工股関節置換術
	関節リウマチ
	先天性内反足
泌尿器科	泌尿器先天疾患
	泌尿器癌治療
	腎移植治療
放射線科	放射線治療
	血管内治療
形成外科	顔面神経麻痺
	加齢性眼瞼下垂
	乳房再建
	皮膚軟部組織腫瘍
	血管種, リンパ管腫
	唇裂・口蓋裂
	小耳症
	顎顔面形成態異常 (クルーゾン病)
	漏斗胸
臍変形	

診療科	診療内容
スポーツ医学診療科	人工関節手術, 関節手術, 靱帯再建術, 人工膝関節術
小児外科	小児外科疾患一般
神経内科	パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症
眼科	ぶどう膜炎 角膜疾患 緑内障 斜視, 弱視, 先天性眼疾患
耳鼻咽喉科	頭頸部癌 難聴, 中耳炎 めまい 鼻アレルギー
皮膚科	皮膚癌・悪性黒色腫の診断と治療方法に関して アトピー性皮膚炎の適切治療に関して
精神科神経科	精神疾患一般の診断・治療
神経外科	未破裂脳動脈瘤 脳腫瘍 脳や脊髄の血管奇形(動静脈奇形・動静脈ろう) 脊髄疾患 小児奇形
小児科	小児免疫不全, 膠原病の診断, 治療 小児血液疾患, 悪性腫瘍の診断, 治療 小児てんかん, 神経疾患, 筋肉疾患の治療 小児内分泌疾患の治療 小児循環器疾患の治療, 診断 小児腎臓疾患の診断, 治療
腫瘍内科	血液腫瘍以外の悪性腫瘍(癌)の化学療法, 治療方針
核医学診療科	PET検査(所見など) 一般核医学検査(所見など) アイソトープ治療
循環器外科	心臓血管手術の適応について 心臓血管手術の治療について
婦人科	婦人科癌に対する治療の選択 不妊症, 生殖医療に関する

【歯科】

診療科	診療内容
予防歯科専門外来	う蝕の診断と処置方針 抜歯の診断基準
矯正歯科専門外来	矯正治療について, 治療法の選択(抜歯, 非抜歯等) 矯正治療について, 治療法の選択(外科的対応をするかどうか) 現在行われている矯正治療について, 不安を感じる時
口腔内科・外科診療 専門外来	口腔外科, 口腔内科の診断治療に関する全般
歯科麻酔専門外来	全身状態からみた歯科治療の適応について 歯科用局所麻酔薬使用について 三叉神経領域の知覚異常について
顎関節治療部門外来	顎関節症
高齢者歯科治療部門外来	歯の欠損の治療(ブリッジ, 義歯, インプラントなど)
歯冠修復専門外来	歯内療法により歯牙の保存あるいは抜歯が適切かの判断

看護の心をみんなの心に

第17回 平成19年度 看護の日・看護週間

看護部 川畑 いつみ

1990年「看護の日」が旧厚生省により制定されて以降、ナイチンゲールの生誕日5月12日を含む1週間を北海道大学病院では看護週間と定め、諸行事を行ってきました。本年は、5月10日から16日を看護週間といたしました。

看護単位25部署から看護の日委員を召集し患者さんへのサービス、そして看護の日の趣旨を浸透させることを目的に準備を行いました。

次に実施内容についてご紹介いたします。

1 ふれあい看護体験

1) 1日ふれあい看護体験

札幌市内や近郊の高校生25名が白衣を着用し、看護師と共に患者さんとお話しをするなどの看護を体験しました。将来の職業選択の役にたてたようです。

2) 1日看護師長体験

病院内のコメディカルスタッフや事務職員を対象に看護師長の業務を体験していただき「看護の日」の趣旨を広くご理解いただきました。患者さんのこと、看護師のこと、チーム医療の重要性を感じる機会になったようです。

2 特別講演会「わかりやすいエイズの話」

HIV/AIDS 担当看護師が、1日看護体験に参加された高校生等を対象に、「性感染症予防・避妊具など具体的な知識の啓蒙」について講演をおこない非常に好評でした。

3 イベント「看護の日の夕べ」

夕食後、会場となったアメニティホールには200人ほどの患者さん達が集まり、ヤマハミュージックスクエア札幌の皆さんによるゴスペルや札幌大谷大学音楽学科のお二人によるピアノ演奏を聞き、ゆったりとした時間を過ごしました。また、病室を出られない患者さんには自

室テレビを使い、ライブ放送がされました。

4 写真と患者さんからのメッセージを展示

日常の看護場面やナイチンゲールに関連する写真、そして、患者さんとともに看護計画を立案し評価している内容（患者参加型看護計画実施プロセス）を写真で紹介いたしました。たくさんの患者さんやご家族の皆さんに楽しんでいただきました。

患者さんからの温かくユーモアあふれるメッセージ、患者さんご自身の頑張りが綴られたメッセージは、私たちが勇気づけられた内容でした。



5 看護師・薬剤師・栄養士・検査技師・歯科衛生士等による相談

血圧測定や体脂肪測定をおこない生活習慣の確認を行う人や普段の外来場面では遠慮して話さない内容をゆったりと話していく人がいました。薬剤師や栄養士の専門的な指導をうけて満足される場面もありました。



編集後記

「江戸時代の江戸です」

4月から、当センター初の男性職員が配属されました。事務職員でありながら、野球をこよなく愛するスポーツマンでもあります。

紹介予約業務を中心に、皆様と接する機会が多くなることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(記：A・H)

発行 ● 平成19年6月

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

電話：011-706-6037・7040 (直通)

FAX：011-706-7963 (直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp>